



家族的な経営

今年ももう10月、神無月という響きが好きです。厳しく暑い夏のなごりがなかなか抜けないそんな季節です。会社で働く人は一生のうち本当に多くの時間を過ごす所です。だから、チームのメンバーと一緒に人生を共有している大切なパートナーです。会社はメンバーと一緒に成長していく場所でもあります。一緒に幸せな人生を過ごして欲しいからその気持ちが分かりあえるそんな職場をめざしています。そんな家族的な経営で今後も成長して生きたいと思っております。これからも宜しくお願い致します。



お客様を好きになること

お掃除の現場では、お客様との信頼関係づくりが非常に重要です。ただキレイにするだけの作業をしていると、単なる「作業員」で終わってしまいます。掃除を通じてお客様との人間関係を築き、深めていこうという気持ちを持つことで、「作業」が「仕事」になり、お客様との距離も縮まっています。一人ひとりのお客様を大切に思い、会話の内容を覚えて次回話題にするなど、積極的に関わろうとする姿勢が大切です。こうした積み重ねが、自分自身の人間的な成長にもつながります。まずは「お客様を好きになること」が何よりも大事です。最近、さまざまなお店を訪れる中で、接客の現場で「言葉が足りないな」と感じる場合があります。そうしたときは、私のほうから「ありがとう」や「お疲れさまです」といった言葉をかけるようにしています。最初は「変なおじさんだな」という表情をされることもありましたが、次第にスタッフの目線や表情がこちらに向いてきているように感じます。私自身も挨拶を交わすことで、気持ちが明るくなります。「挨拶で始まり、挨拶で終わる」という言葉があるように、挨拶は人間関係を円滑にするうえでとても重要な行動です。これからもまずはお客様を好きになることを心がけ、良好なコミュニケーションを築いていきたいと思っております。

魅せる働き

周囲から「見られている」と感じることで大きく成長します。特に接客においては、「見られている」意識の強い人は、仕事に取り組む姿勢が高いといわれます。その姿勢は個を成長させ、業績も上がるようです。あるレストランでは、料理人の仕事ぶりとお客様の食事の様子が見えるように厨房と店内の仕切りがないオープンキッチン型に改装しました。すると、料理人の姿勢が変わり、料理の味の評価が上がって、リピーター客が増えたということです。仕事とは本来、人が見ていようとそうでなかろうと、常に真剣に取り組まなければなりません。そこで大切になってくるのが「見られている」意識を維持することなのです。「見られている」意識が強くなると次に「魅せたい」意識が生じてきます。この意識は、個人の人間力を高めることにつながり、お客様のことを思う力となります。魅せる働きができるように取り組みたいものです。



お客様に感謝

彩花では毎年5月～8月にエアコンキャンペーンを行っています。今年は1447台(業務用465台・家庭用982台)、目標の1500台には少し届きませんでしたが、スタッフの頑張りもありたくさんのご依頼を頂きました！これもひとえにお客様のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。これからもこのご縁を大切に頑張っていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

9月～11月は水回りのキャンペーンを行っておりますので、そちらもどうぞ宜しくお願いいたします。

水回りの お掃除 キャンペーン実施中

キッチン 15,000円 13,000円	レンジフード 10,000円 8,000円
浴室 13,000円 10,000円	エプロン洗濯 3,000円 洗面台清掃 3,000円
水回り3点セット 30,000円 25,000円	



言葉の不思議

■句会

友人に誘われ「虹の会」という句会で俳句の手習いを始めました(俳号は楽平です)。月に一度のオンライン句会です。10人たらずのメンバーが事前に5句ずつネット投稿し、句会では作者名が伏せられた状態で各人がいいと思った句を5つずつ選びます。

そして選んだ理由を選者が披露していくというものです。最後に各句の作者と選者が一覧で明かされます。

俳句か〜ということで最初は敷居の高さを感じましたが、日々の暮らしのなかで、目がとまり、心が動いたことを五七五で一つの句をつくりあげていきます。その過程に何ともいえない面白さを感じています。草花とか虫の音とか新米の香りとか流行語とか日常にかまけて通りすぎ、流してしまっていたちょっとしたことが句作の種です。その種を元にあらこれ悩みながら言葉を選び紡いでいきます。その過程で「自分」と出会い直していく、その感じがいいのです。道具もなにもいらない安上がりのエンターテインメントです。



■余白

そんな俳句の世界から現実にもどると、24時間インターネットで情報が飛び交い、SNSやYouTubeによって社会が動いている日常があります。SNSの時代では、あっという間に情報がかけめぐり、これまで会ったことがない人とつながることが容易となり、新しいサービスや価値観に出会う機会が増えました。驚くとともにありがたいと思うことがしばしばです。けれども、LINEにしてもメールにしても、言葉のやりとりは文字や情報が中心。相対で生身でのコミュニケーションが入り込む余地はほとんどありません。

声色とか表情、身振り、雰囲気といった、言葉にならないニュアンスや余白の大切さを忘れてしまい、トラブルの原因となることが少なくありません。



■言葉

「言葉」というのはつくづく不思議な存在だと思います。言の葉(ことのは)といういいかたがあります。

植物の葉が栄えるように言葉も栄える、という意味だそうです。一方で、言端(ことば)と書く場合もあります。

口先だけの表現を意味するそうです。言葉がもつこの二面性は、コミュニケーションの難しさに通じるのではないでしょうか。句会においてはこの句を選びましたというとき「この句をいただきました」という言い方をします。

たった17文字の俳句が人生やものの見方を変えることがあることへの敬意を示しているのだと思います。

句会で句作を互いに評価しあうなかで、自作の句を自分が思いもしなかった視点から褒めてもらおうと、言葉の世界がちょっとだけ豊かになった気になるものです。まさに言の葉の世界です。一方、言端ということでは、言葉や文字だけで論理的・情動的に伝えようとすればするほど、「お題目」「お説教」として終わってしまい誤解されることが多く、反省することしばしばです。



■新聞のチカラ

世の中には情報化できなことや言葉では表現しきれないことが山ほどあると改めて思います。

最近、若者(とりわけ女性)の間で五七五七七の短歌が流行しているそうです。スマホ・SNS・AI時代の時代だからこそ、たまには身を離し、日々の余白をみつめなおすかで自分なりの表現をひろげていく生存本能というか原点回帰欲求が働いているように思います。言葉になしづらい、それでも言葉をさがしだし、誰かに伝えるという行為は人間にしかできないことです。そういう意味で、「新聞(ニュース)」の意義と可能性は大きいと思います。暮らしや仕事でのエピソードや出来事、お知らせを「言の葉(ことのは)」として届けていくことは、日常と人間関係を豊かにしてくれるものだと思います。

新米や光る君とのご対面(楽平)